

平成29年度 第26回 加古川市青年海外派遣団 報告書



 加古川市

Kakogawa City

目 次

ごあいさつ

加古川市長 岡田 康裕	1
-------------	---

青年海外派遣

団員プロフィール	2
----------	---

派遣団日程表	3
--------	---

事前研修	4
------	---

結団式・事後研修	5
----------	---

団員レポート	6
--------	---

派遣研修の記録	14
---------	----

これからの活躍を期待して

近年、情報通信技術の著しい進歩にともない、私たちは世界各地の情報を容易に得ることができ、世界を身近に感じることができるようになりました。

地方自治体や民間団体はもちろん、個人においても、外国の人々との交流が図られ、異文化への理解を深める機会が増えています。また、訪日外国人が飛躍的に増加しており、加古川市内でも外国人を目にする機会が増えてまいりました。

このような状況において、加古川市では、昭和48年、ブラジル・マリンガ市との姉妹都市提携を契機に、「地域に根ざした国際交流」を目ざして、青少年の海外相互派遣をはじめ、在住外国人との交流など各種の事業を実施しています。

加古川市青年海外派遣事業は、姉妹都市等での交流を通じて国際的視野を持ち、国際親善に貢献できる行動力のある国際人を育成することを目的として実施しており、平成4年に第1回目の派遣団をブラジル・マリンガ市に派遣して以来、毎年欠かさずことなく派遣を続けています。26回目の派遣となる今回も3名の青年を派遣し、相互理解や友好親善を深めてまいりました。

この度の派遣では、加古川名物の「かつめし」普及啓発を目的として、「うまいでえ！加古川かつめしの会」から副会長が派遣団に同行され、マリンガ市の方々に調理方法やタレの作り方をお伝えし、現地で開催された日本文化祭では好評を博しました。派遣生たちは、マリンガ市民の心からの歓迎に触れ、言語を超えた人との繋がりの大切さを改めて感じるとともに、食文化の交流を通してふるさと加古川への愛着を深めることができたと思います。今回の派遣を機に、派遣生たちが地域社会、さらには国際社会の一員であることを認識し、国際人として活躍されることを大いに期待しています。

結びになりますが、この青年海外派遣にあたってご理解、ご協力を賜りました関係機関の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成29年12月

加古川市長 岡田康裕

団員プロフィール



岡田 朋
TOMO OKADA



藤原 裕平
YUHEI FUJIWARA



松谷 友理恵
YURIE MATSUTANI



「うまいでえ！加古川かつめしの会」より同行
杉本 洋一
YOICHI SUGIMOTO

団長

白水 伸英
加古川市副市長
NOBUHIDE SHIRAMIZU

引率

森田 英樹
（公財）加古川市国際交流協会事務局次長
HIDEKI MORITA

加古川市青年海外派遣団日程表

月日(曜)	場 所	交通機関	行 程	宿 泊
平成 29 年 8 月 15 日 (火)	加古川発 関西空港 (KIX)	市バス EK317		機中泊
8 月 16 日 (水)	ドバイ着 (DXB) ドバイ発 (DXB) サンパウロ着 (GRU)	EK261 専用車		サンパウロ泊
8 月 17 日 (木)	サンパウロ発 (CGH) マリンガ着 (MGF)	専用車 G3-1154	サンパウロ市内見学 (日本移民史料館、東洋人街など) 歓迎夕食会	ホームステイ
8 月 18 日 (金)	マリンガ		加古川・マリンガ外国語センター訪問 マリンガ空港拡張記念式典出席 ユニセズマール大学訪問 マリンガ市役所表敬訪問 マリンガ市議会表敬訪問	ホームステイ
8 月 19 日 (土)	マリンガ		日本庭園見学 パラナ老人福祉和順会訪問	ホームステイ
8 月 20 日 (日)	マリンガ		ホストファミリーとのプログラム かつめし試食会出席 お別れ夕食会	ホームステイ
8 月 21 日 (月)	マリンガ発 (MGF) サンパウロ着 (GRU) サンパウロ発 (GRU) イグアス着 (IGU)	G3-1111 G3-1170 専用車		イグアス泊
8 月 22 日 (火)	イグアス発 (IGU) リオデジャネイロ着 (GIG)	専用車 JJ3624 専用車	イグアスの滝 (アルゼンチン側) 見学	リオデジャネイロ泊
8 月 23 日 (水)	リオデジャネイロ	専用車	リオデジャネイロ市内見学 (コルコバードの丘、砂糖パンの丘など)	機中泊
8 月 24 日 (木)	リオデジャネイロ発 (GIG) ドバイ着 (DXB)	EK248		ドバイ泊
8 月 25 日 (金)	ドバイ	専用車	ドバイ市内見学 (ジュメイラモスク、ドバイ博物館など)	機中泊
8 月 26 日 (土)	ドバイ発 (DXB) 関西空港着 (KIX) 加古川着	EK316 市バス	入国手続き	

事前研修

選考会で選ばれた3名の派遣生は、加古川市代表としての認識を深めるとともに、マリンガ市やブラジルの歴史・文化の理解を目的として、4回の事前研修を受講しました。

昨年度の派遣生を招いての座談会では、マリンガ市での歓迎行事やホームステイなどについてアドバイスを受けました。また、ポルトガル語研修では、第1回青年海外派遣生である胡重尚子氏を招いて、あいさつや派遣中によく使う言葉など、ポルトガル語の基礎を学習しました。

マリンガ市のお別れ夕食会の席では、交歓プログラムとして「PPAP」のダンスと「One Love」の合唱披露を団員で決定し、事前研修の合間に練習を行いました。

事前研修日程

	実施日	内 容	場 所
第1回	7月1日(土)	オリエンテーション 自己紹介 昨年度の派遣生との座談会	加古川市国際交流センター
第2回	7月15日(土)	加古川市の国際交流(講義) ポルトガル語研修 訪問地研究発表 交歓プログラムの決定	加古川市国際交流センター
第3回	7月29日(土)	ブラジル移民の歴史 自己研修テーマ発表 交歓プログラムの練習	海外移住と文化の交流センター (神戸市中央区)
第4回	8月5日(土)	結団式	加古川市国際交流センター



事前研修風景



結団式の様子

結団式

8月5日（土）国際交流センターにて、結団式を実施しました。加古川市長や市議会議員から激励の言葉をいただき、市を代表して派遣されることへの責任を改めて感じました。また国際ソロプチミスト加古川から、現地で使用するショルダーバックの寄贈を受けました。最後に「健康と安全に留意して派遣研修に行ってきます。」と、藤原さんが派遣団を代表して誓いの言葉を述べました。



派遣生 誓いの言葉



結団式に臨む派遣生

事後研修

9月24日（日）国際交流センターにて、事後研修を実施しました。現地での経験を今後どのように活かしたいかなど、意見を交換しました。「姉妹都市であるマリंगा市の受け入れに感激した。また、加古川市への興味も深まった。」「今後も加古川市の国際交流について、できることがあれば協力したい。」「当初は不安であったが、実際に訪れたことでブラジルのイメージが一変した。ぜひもう一度訪れたい。」と語るとともに、「この派遣に参加することにより、多くのことを学ぶことができた。今後もより多くの青年に経験してもらいたい。そのためにもこの事業のPRをもっと活発にすべき。」と将来の本事業への期待を寄せました。



帰国式

ブラジル滞在を通じて

岡田 朋

「行ってみーひん？ ブラジル。」

仕事から帰宅し、部屋でくつろいでいる時に、父から1本の電話がかかってきました。

「いつ？」「8月。」「何日間？」「12日間。」

それまで海外に行ったのは大学の卒業旅行ぐらいでした。特別海外に興味があるという訳ではなかったですし、むしろ私の人生において、海外というものはこれまでもこれからも、旅行で短期間行く程度のもので良いと思っていました。

しかしながら、「これからはグローバルな人材が世間で当たり前必要とされるから、海外は若いうちに行って沢山の刺激を受けて学ぶべき。」という義務も感じます。考えあぐねた末、「ふーん、せっかくやし行こうかなー。有給も余ってるし。」と返事をしました。

お恥ずかしいながら、これが青年海外派遣への参加のきっかけです。事前研修に参加するなかで、ポルトガル語、ブラジル移民の歴史、マリンガ市と加古川市の関係等を学習しました。学ぶ前は、海外というフィ



ホストファミリーと

ルターをかけて勝手にイメージしていたのですが、日本との違いを知っていくと、奥が深くて面白い。そう感じ始めてからブラジルに行くのが日に日に楽しみになっていきました。

8月15日に日本を出国。約24時間のフライトの末、サンパウロ空港に到着、そのままホテルに向かうため専用車に乗車しました。その移動中、サンパウロのガイドさんがいくつかブラジルでの禁止事項を教えてくださいました。「OKサインは親指を立ててください。親指と人差し指で円を作るサインは相手に失礼に当たるので、しないように。」「『待つて』は言わないで下さい。ポルトガル語では『殺せ』という意味なので、大声で叫ぶと危険です。」「何か尋ねられてもニコニコしないで下さい。笑顔は承諾の意味なので、犯罪に巻き込まれる可能性があります。」そういえば、事前研修での講義の中でも、「一度、自分の手から離れた荷物は他人のものと見なされるため、絶対に手放さないように！」「決して一人だけで路地には入らないように。」等々の話を思い出します。そのような情報は、ブ



ホストファミリーと

ラジルに対する私の印象を、「恐ろしい国」に変えていきました。無事に帰国することができるのだろうか。人生経験として来たのに、ここで人生を終えることになってしまうのだろうか、など心配性な私の性格により思考が飛躍し、楽しみだった気持ちが一気に不安に変化していきました。

サンパウロ市内を一日見学した後、今回の派遣研修のメインとなるマリングア市へ移動しました。そこで4日間お世話になるホストファミリーに出会いました。19歳と23歳の姉妹のいる、四大家族です。ポルトガル語と英語を話せる家族だったため、日常会話は英語で行いました。マリングアでの滞在で一番心に残ったことは、愛と優しさに溢れた人が多いということです。挨拶をする時は恋人同士でなくともハグをし、頻りに家族間でホームパーティーが開催され、通行人にも友達と接する感覚でお話をする。この光景を目にして、ブラジルは「恐い国」という印象は消えていきました。自分の偏った思考と他人からの情報のみで、恐いと決めつけていたことに恥ずかしさを覚えた瞬間でした。日本よりも犯罪件数が多いことは事実ですが、日本よりも人を大切にする文化を持っています。どこの国や人にも、良い面・悪い面があるから、きちんとコミュニケーションをとり、実際に自分の目で見て確認することが大切であることを感じました。滞在が長くなり、多くの人と触れ合うにつれ、ブラジルの印象は非常に良いものに変わっていきました。

今回の派遣研修で学べた大きなことは相互理解には実際に自分の目で見て、体験し、コミュニケーションをとっていくことが大切だということです。このことにより、偏った思考を拭い去り、相互理解が実現すると感じました。また、そのなかで知った自国

と異なる部分は、拒否するのではなく、受け入れ、認め、尊重することで、より多くの国同士が調和できるのではと考えます。それはもちろん、個人間でのコミュニケーションでも大切なことです。金子みすゞも言うように、「みんなちがって、みんないい」ところがあります。きちんとコミュニケーションをとり、お互いを受け入れることができれば、円滑な人間関係を築けるのだと思います。そして国家は人の集合体です。より多くの人と交流を深め、違いを理解し受け入れることができれば、世界からは争いが無くなるのではないのでしょうか。

この加古川市青年海外派遣団への参加により、以前とは異なった考え方を得ることができました。最後に、この行事で関わった全ての人に心から感謝申し上げます。そしてこの行事が今後も、青年に人生を考える・価値観を変化させるきっかけを与える行事、加古川市とマリングア市の文化交流と発展の支えになる行事として続いていくことを、心よりお祈り申し上げます。



お別れ夕食会にて

ブラジル・マリンガでの体験

藤原 裕平

姉妹都市という存在を知ったのは15年以上前に遡りますが、加古川市の姉妹都市にはどのような人々がどのように暮らしているのかという興味は持ち続けていました。本派遣のことを偶然知り、「この機会を逃すとこれから生涯ブラジルへ行くことはない」と考え、応募を決意しました。

日本の反対側に位置するブラジルは、距離こそ離れていますが、日本との結びつきは強いです。それは、戦前より移民船によりブラジルへ移住した多くの人々、またその子孫である日系ブラジル人が、ブラジルの発展に尽くした理由に他ならないからと事前研修にて学びました彼／彼女らの多大な努力・苦労があり、現在の良好な関係があると言えます。

さて、ブラジルでは複数の都市を訪問しましたが、多くの方々とふれ合うことができたマリンガでの滞在が最も強く印象に残っています。そこで出会った多くの方々に熱い歓迎を受け、感動しました。それも、移民でブラジルへ渡った日本人とその子孫



ホストファミリーと

である日系人、姉妹都市協定にご尽力された方々、これまでの加古川ーマリンガ間の派遣団等のご活躍があったからこそだと思い、感慨深いものがあります。

マリンガでの滞在中は日系人の藤原ウゴさん、マウラさんご夫妻宅にホームステイさせていただきお世話になりました。日本では別段珍しい出来事ではないのですが、まさかブラジルで自分と同じ名字の方と会うとは考えておらず、大変驚きました。二人とも日本語を話すことができ、コミュニケーションには全く苦勞しませんでした。

ウゴさんはマリンガの市役所や劇場等を設計した建築士であり、行く先々で知り合いと会い、私を紹介して下さいました。ご自宅も設計されており、特に屋根瓦は素材そのものの色（即ちブラジルの至る所で見かける赤土の色）ではなく、1枚ずつ綺麗に着色された瓦を使用した、と拘りのポイントを伺いました。また、マリンガや次に向かうイグアスの天気を細かくチェックされており、我々の事を常に気にされていま



バカリヤウ（鱧）パーティーにて

した。マウラさんにはショッピングで買いたいものがあると伝えると、どこで売っているか調べ、100km以上離れたロンドリーナまで車で連れて行って下さいました。食事が私の口に合うか、体調はどうか等、常に私に気を配って下さり本当に感謝しています。余談ではありますが、ブラジルではシュラスコ、パステウ、バカリヤウ、フェイジョアーダ、ポンデケージョ等の料理をいただき、どれも非常に美味しかったです。

マリンガではホームステイプログラムの他にも、空港拡張の調印式、市役所、市議会、加古川・マリンガ外国語センター、ウニセズマール大学、日本庭園、パラナ老人福祉和順会への表敬訪問／視察を行い、マリンガについて学ぶとともに、交流を通して加古川ーマリンガ間の友情を深めることができました。今、私がすぐにできることと言えば、ブラジルの自然の雄大さ、移民の歴史、マリンガで出会った人々の温かさ等、素晴らしい経験を周囲に伝えることです。今後の交流で、マリンガからの派遣団が来日する時は、是非何か協力できればと考えています。

私は現在、ハリマ化成に勤務しています。ブラジルにもハリマ化成グループの工場があり、初めての海外進出先でもあります。ポントグロッサにパラナ工場が、サンパウロにサンパウロ事務所があります。ポントグロッサはマリンガと同じパラナ州に位置するものの、距離が遠く残念ながら行くことは叶いませんでした。しかし、私の紹介をするときに工場がポントグロッサにあるということで、より多くの人々に関心を持って貰うことができました。ブラジルではユーカリの木他に時折、特異な形状をした木が散見されました。パラナ松という名前で、伐採により数を減らしており、現

在は絶滅危惧種に認定されているそうです。弊社加古川製造所内にもパラナ松が2本植えられており、今、改めて見てみると、ブラジルでの景色が蘇ってきます。

最後に、現地ではホストファミリー、植田様ご夫妻をはじめ、非常に多くの方々にお世話になりました。また、加古川市国際交流協会の皆様、快く送り出して頂いた会社の皆様が居たからこそ、貴重な一生忘れられない体験ができました。心より感謝申し上げます。



マリンガ日本庭園にて



パラナ松

～日本の裏側で感じたこと～

松谷 友理恵

私は、母の友人からの勧めがきっかけで、第26回加古川市海外青年派遣団に応募しました。海外にはとても興味があり、異世界に触れることが私にとって刺激的でした。

マリンガ市でのホームステイでは、日系のホストファミリーと4泊5日の時間を共に過ごしました。私のホームステイ中にちょうど三男の9歳の誕生日が重なっており、夕方から家で誕生日パーティーが開催され、ホストファミリーの親戚たちや、三男のクラスメイトが集まりました。

特に印象的だったのは、ホストファミリーの親戚の方々が、とても私に興味を持ってくれたことです。日系二世の方の中にはいらっしゃって、日本語でお話をして下さいました。日本人の私が来たことをとても歓迎してくださり、日本にいらっしゃる家族のことを紹介していただき、日本が遠くて帰れないから代わりに連絡して欲しい



ホストファミリーと

いなど、今のお気持ちを聞くことができました。やはり、長年日本を離れると少し恋しくなるのかな、と感じました。

9歳のクラスメイトのお友達たちはとても可愛くて、みんなの元気な姿に癒されました。言葉は通じないけど、触れ合うことで楽しい時間を共有することができました。

サンパウロの日本移民史料館では、移民についての歴史を学びました。事前に日本で「ハルとナツ」のDVD鑑賞や神戸市の海外移住と文化の交流センターでの学びもあり、理解が深まりました。ブラジルで尽力した日本人の方々の歩みを知ったことで、さらに日本人の辛抱強さや賢さを感じることができました。派遣団に参加していなければ、移民について学ぶこともなかったので、大変興味が広がりました。

ブラジル全体の街や人について感じたことがあります。まず、スラム街の存在を知りました。ブラジルのリオデジャネイロに到着したのは深夜だったので、ホテルまで



パラナ老人福祉和順会を訪問

の移動は夜景を眺めながらでした。海と山が両方共見え、夜景がとても綺麗でした。その中でひととき綺麗な部分がスラム街だとガイドさんから教えていただきました。スラム街は人口密度が高く、一つ一つの家も小さく、また密集していることから、夜になると輝いているように見えます。実際にスラム街は見に行けませんでした。貧富の差が大変大きいことを知り、もっと歴史を勉強したいと思いました。また、観光地で登ったコルコバードのキリスト像やポン・ジ・アスーカルからもスラム街は多く見られました。

次にブラジル人についてです。ブラジル人は陽気な人が多いと聞いていましたが、まさにその通りでした。ブラジル人タイムと言われるものもあり、いい意味で時間に、そこまで縛られていない文化でした。ブラジルは移民の国ということで、様々な人種が存在しており、本当に誰もが受け入れられる国ということを感じました。

イグアスの滝は圧巻でした。ブラジル側とアルゼンチン側からの両方からの景色を体験しましたが、本当に地球はすごいと感じました。イグアスの滝の由来は、大きな火山の噴火の後に豪雨が降ったため、急激な冷却で、大きな滝ができたと話していま



マリンガ市内にて

した。イグアスの滝は、飛行機の離陸時に空港上空から見えましたが、ほんとに急にイグアスの滝が森の中に出現しています。森の中に急に現れるイグアス滝はとても神秘的でした。8月は川の水量が少ないシーズンと聞いていましたが、それでもかなりの水量と、迫力でした。アルゼンチン側からのイグアスの滝は、全身びしょ濡れになりながらの見学でした。距離が近い分、水しぶきもすごかったのですが、それ以上に水量に驚きました。毎秒65,000トンもの水量が流れており、これは世界最大の水量だそうです。

今回この派遣団に参加したことで、本当に様々な経験をさせていただきました。まず初めに親をはじめ、参加も機会を与えてくださった方々や派遣団のメンバー、事前研修でお世話になった方々に感謝の気持ちを伝えたいです。また、今後も派遣団での経験を生かして、国際的な視点を忘れずに、学びを深めていきたいです。ありがとうございました。



マリンガ市内にて

かつめしブラジル普及活動報告

うまいでえ！加古川かつめしの会 杉本 洋一

思いもよらぬ突然のブラジル行きの依頼。その使命は、加古川の「かつめし」の味と調理法を現地のコックさんへ指導することです。加古川市長から「かつめし大使」の委嘱も受け、大任を拝してのブラジル行きとなりました。

ブラジルには8月16日の夜に到着。2日目は、サンパウロ市内の東洋人街と日本移民史料館の見学後、白水副市長の同行でニッケイ新聞（ブラジル最大の日本語新聞）を訪問し、深沢編集長と高木氏の取材を受



歓迎夕食会にて

いようで、何人もの方たちに一緒に記念撮影をせがまれました。歓迎レセプションの会場は、9月2日から開催される日本文化祭の前夜祭も兼ねており、出席者は400名を超える規模でした。ちなみに日本文化祭は、9月2日から10日まで開催される、入場者が例年約10万人超という大イベントであるとのこと。

ブラジル3日目は、午後からレストラン「アジア」で3名のコックさんとかつめしのタレを試作しました。現地で調達したデミグラス粉末ソースの香辛料がキツ過ぎたり、ケチャップが甘すぎたりとなかなか上



かつめしサンプルと記念撮影

げました。掲載された記事内容については、後に長谷川日伯協会副理事長（ハリマ化成(株)社長）からのメールで知ることになります。

午後に飛行機にてマリンガ市に移動。歓迎レセプションはACEMA（アセマ）会館で行われました。ステージ上では、ポルトガル語ののぼりを立て、かつめしの食品サンプルを手に、加古川からやってきた「かつめし大使」として紹介をされました。

食品サンプルは、ブラジルでは大変珍し



かつめし作り講習会

手くいかず、4回もの失敗を重ねました。レストランの开店時間も近づいてきたため、調理場所を植田真一氏（マリンガ国際交流協会会長）宅へ移し、更に試行錯誤の結果、タレの基となる、焼いた牛骨と野菜を煮込んだスープが深夜に完成しました。

ブラジル4日目。早朝よりかつめし作り講習が行われるACEMA会館で、植田氏の奥様（香代子氏）と共に前日作ったスープを用いて納得するタレが出来上がりました。かつめし作り講習に参加された女性32名と地元TV局員2社4名にかつめしのレシピを配布し、作り方を説明した後、試食を兼ねて昼食。大好評でした。共に苦勞した植田香代子氏と握手で喜びを分かち合いました。（香代子氏は、9月2日からの日本文化祭のかつめし提供に際し、中心になる方です。）

ブラジル5日目。レストラン「アジア」でマルコス料理長と完成したタレを使ってかつめしを調理。マリンガ商工会議所主催のかつめし試食会では、副市長、会議所会頭をはじめ25名の出席者に大好評を得ました。

帰国後、レストラン「アジア」で加古川かつめしがメニューに追加されたことや、日本文化祭ではかつめしが大変好評だった



かつめし作り講習会

等のメールをマリンガ市の皆様からいただきました。苦勞した甲斐があり、自分なりに使命を果たせたと今、安堵しているところです。

※持参したもの（記載の物品については、現地に進呈。）

◎かつめし食品サンプル（ハリマ化成株 長谷川社長より贈呈）2個◎パンフレット（ポルトガル語）100部◎のぼり「ポルトガル語」20枚◎のぼり「加古川かつめし」5枚◎加古川かつめしの箸100膳◎DVD（調理の実写 ポルトガル語翻訳スーパー付）3枚◎缶バッチ 100個◎加古川かつめしTシャツ LL 2枚、L 3枚、M 2枚



かつめし試食会



かつめし試食会

派遣研修の記録

第1日目 平成29年8月15日（火）

18：30 加古川市国際交流協会に集合

18：45 出発式

市バスにて関西国際空港へ

23：45 関西国際空港（KIX）出発（EK317）



関西国際空港

第2日目 平成29年8月16日（水）

04：50 ドバイ空港到着、乗り継ぎ

08：35 ドバイ空港（DXB）出発（EK261）

16：30 サンパウロ空港（GRU）到着

19：30 ホテル到着（ブルツリー プレミアム パウリスタ）



ドバイ空港



サンパウロ空港にて



サンパウロのシュバスカリア

第3日目 平成29年8月17日(木)

サンパウロ市内見学

- ・ リベルタージ東洋人街
- ・ 日本移民史料館
- ・ 市立公設市場

※ブラジルパラリンピック委員との会議(団長)

16:20 サンパウロ空港(CGH) 出発 (G3-1154)

17:40 マリンガ空港(MGF) 到着

20:00 歓迎夕食会

各ホームステイ先で宿泊



サンパウロ 日本移民史料館



マリンガ空港到着



歓迎夕食会



歓迎夕食会

第4日目 平成29年8月18日(金)

※かつめしのタレ調製(杉本氏)

(AM) 加古川・マリンガ外国語センター訪問

マリンガ空港拡張記念式典への参加

(PM) ウニセズマル大学訪問

マリンガ市役所表敬訪問

マリンガ市議会表敬訪問

各ホームステイ先で宿泊



加古川・マリンガ外国語センター



加古川大通り (アベニータ カコガワ)



ウニセズマル大学



マリンガ市長表敬訪問



マリンガ市議会表敬訪問

第5日目 平成29年8月19日(土)

※かつめし講習会(杉本氏)
(AM) 日本庭園訪問
パラナ老人福祉和順会訪問
(PM) ホストファミリーとのプログラム
各ホームステイ先で宿泊



マリンガ日本庭園

第6日目 平成29年8月20日(日)

※かつめし試食会(杉本氏)
(終日) ホストファミリーとのプログラム
19:30 お別れ夕食会
各ホームステイ先で宿泊



かつめし試食会



お別れ夕食会での青年アトラクション



お別れ夕食会

第7日目 平成29年8月21日（月）

05:35 マリンガ空港（MGF）出発（G3-1111）
07:05 サンパウロ空港（GRU）到着 乗り継ぎ
11:45 サンパウロ空港出発（G3-1170）
13:30 イグアス空港（IGU）到着
イグアスの滝（ブラジル側）見学
ホテル到着（ヴィアーレ タワーホテル）



イグアスにて

第8日目 平成29年8月22日（火）

イグアスの滝（アルゼンチン側）見学
15:30 イグアス空港（IGU）出発（JJ-3624）
17:25 リオデジャネイロ空港（GIG）到着
ホテル到着（ミラソウ コパカバーナホテル）



イグアス公園内のトロッコ列車

第9日目 平成29年8月23日（水）

リオデジャネイロ市内見学
・コパカバーナ海岸
・マラカナンスタジアム
・サンボードロモ、メトロポリターナ大聖堂
・コルコバードの丘（キリスト像）
・ポンジアスーカル



コルコバードの丘にて

第10日目 平成29年8月24日(木)

02:05 リオデジャネイロ空港 (GIG) 出発 (EK248)

23:05 ドバイ空港 (DXB) 到着

ホテル到着(ヒルトン ガーデンイン ドバイ アルミラ ハット)

第11日目 平成29年8月25日(金)

ドバイ市内見学

- ・ スパイススーク (市場)、ゴールドスーク
- ・ アブラ (水上タクシー)
- ・ ドバイ博物館
- ・ ジュメイラビーチ、モスク
- ・ ブルジュ カリファ



アブラ乗船



スパイススーク



ジュメイラモスク

第12日目 平成29年8月26日(土)

03:30 ドバイ空港 (DXB) 出発 (EK316)

17:40 関西国際空港 (KIX) 到着

19:00 市バスにて国際交流センターへ

21:00 国際交流センター到着、帰国式

解散



帰国式

現地の新聞に掲載されました

加古川名物「かつめし」発信

副市長らマリリング視察

パラナ州マリリング市と姉妹都市提携を結ぶ兵庫県加古川市から白水伸英副市長とかつめし大使の杉本洋一さんが、8月15日から12日間、マリリング市を中心に視察し、加古川市名物「かつめし」の広報活動を行った。白水副市長、杉本さん

ら、同月17日に、マリリング文化体育協会主催の日本祭りに参加。加古川市名産のかつめしの調理方法を現地の飲食関係者に教える交流会を行った。

かつめしは、50年代に加古川市内の洋食店により発案された、ご飯の上に牛かつをのせてデミ

グラスソースをかけた料理。白水副市長は「かつめしは加古川市民のソウルフード。学校の給食でも出ます」というほどで、同地の郷土料理として知られる。

杉本さんは、「すでにマリリングのレストランでかつめしを出す計画が進んでいる。来年9月の日



(左から)来社した白水副市長、杉本さん

本食フェアでは現地の4つの飲食店がかつめしを提供する。マリリングを起点に伯国全土に広めた」と意気込んだ。そのほか、今回で26回目となる加古川市の青年海外派遣事業で4人が同日程で来伯し、白水副市長らと共に同市議会への表敬訪問などを行なった。

【 ニッケイ新聞 (2017年9月16日)より抜粋 】

日伯協会の会報に掲載されました

(一財)日伯協会が発行されている会報「0 BRASIL」秋号にこの度の青年海外派遣事業が紹介されました。

姉妹都市の国際交流

加古川市とマリンガ市の姉妹都市交流

第26回加古川市青年海外派遣団は白水副市長を団長として、かつめし大使の杉本さんを含めた6名が8月15日より12日間ブラジルを訪問した。
まず加古川名物「かつめし」の普及活動の話から。



ポルトガル語版のパンフレット

昭和20年代末の加古川駅前食堂で、「お箸で気楽に食べられる洋食はでげんやろか?」と考え出されたのが、お皿一枚でお箸で食べる「かつめし」です。今では加古川や周辺の飲食店や、家庭で親しまれている郷土料理。

今年5月、植田真一マリンガ国際交流協会会長一行が加古川を訪問した際、かつめしがいよいよ、ブラジル人の口へ合うと好評で、加古川市がブラジルでの普及をめざし、「う



歓迎レセプション

まいでえ! 加古川かつめしの会」の杉本洋一副会長を「かつめし大使」として派遣しました。ポルトガル語のパンフレットを手渡した岡田康裕市長は「あわよくばブラジル全土に、かつめしが広がることを期待している」と激励しました。杉本さんは元加古川プラザホテルの総支配人で、「長年加古川で親しまれた味を伝えたい」と意気込み、かつめしサンプル、ポルトガル語ののぼり旗、かつめし調理法のDVD等を携えて出発しました。

杉本大使のマリンガでの活動報告から

サンパウロでニッケイ新聞の取材を受け、16日後マリンガに到着。ACEMA (アセマ) 会館で行われた歓迎レセプションでは、ポルトガル語ののぼり旗を立て、かつめしの食品サンプルを手に、加古川からやってきた「かつめし大使」として紹介されました。

食品サンプルは、ブラジルでは大変珍しいようで、何人もの方たちと一緒に記念撮影をせがまれました。歓迎レセプションの会場は、9月2日から開催される日本文化祭の前夜祭も兼ねており、出席者は400名を超える規模でした。

ブラジル3日目の18日は、午後からレストラン「アジア」で3名のコックさんとかつめしのタレを試作しました。現地では



かつめし試食会

調達したデミグラス粉末ソースの香料がキツ過ぎたり、ケチャップが甘過ぎたりとなかなか上手いかず、4回もの失敗を重ねました。レストランの開店時間も近づいてきたため、調理場所を植田氏宅へ移し、更に試行錯誤の結果、タレの基となる、焼いた牛骨と野菜を煮込んだスープが深夜に完成しました。

翌朝には植田氏の奥様(香代子氏)と共に前日作ったスープを用いて、納得するタレが出来上がりました。

ACEMA会館の講習会では、参加された女性32名と、地元TV局員2社4名にかつめしのレシピを配布し、作り方を説明後、試食を兼ねて昼食。大好評でした。

翌日はレストラン「アジア」で、マルコス料理長と完成したタレを使ってかつめしを調理。マリンガ商工会議所主催のかつめし試食会でも、副市長、会議所会頭をはじめ25名の出席者に大好評を得ました。

帰国後、レストラン「アジア」で加古川かつめしがメニューに追加されたことや、日本文化祭ではかつめしが大変好評だった等のメールを皆様からいただきました。苦勞した甲斐があり、自分なりに使命を果たせたと今、安堵しているところです。

ハリマ化成グループ株代表取締役で当会副理事長の長谷川吉弘氏より、加古川は毎年マリンガへ青年海外派遣団を派遣していますが、今年は加えて加古川名物「かつめし」をPRするため、「かつめし大使」を派遣したことが紹介され、この記事となりました。

第26回加古川市青年海外派遣団の活動報告

加古川市は、国際親善に貢献できる行動力のある国際人を育成することを目的として、マリンガ市へ青年男女を派遣している。平成4年に始められ、今回は第26回、岡田朗さん、藤原裕平さん、松谷友理恵さんの3名が選ばれた。派遣生は加古川市の国際交流についての講義、ポルトガル語の学習、海外移住と文化の交流センターの見学等の事前研修を受けて出発された。派遣生の現地での活動の一部を紹介します。

ブラジル滞在を通じて

海外というのは旅行で短期間行く程度のもので思っていたのですが、「海外は若いうちに、たくさん刺激を受けて学ぶべき」と言う

義務感も感じ参加しました。事前研修を受け面白そうと楽しみにりましたが、サンパウロのガ



マリンガ空港でのお出迎え

イドさんに、親指と人差し指で円を作るサインは相手に失礼、待っては言わないで、ポルトガル語では「殺せ」を意味する等言われ、無事に帰国できるかと不安になってきました。でもマリンガでホストファミリーにお世話になり、多くの人達と触れ合ううちにブラジル人の愛と優しさを感じ、「怖い国」の印象は消えて行きました。今回の派遣で、相互理解には実際に自分の目で見て、体験し、コミュニケーションを取ることが大切だということを知りました。

ブラジル・マリンガでの体験

姉妹都市マリンガにはどのような人達が暮らしているのか興味をもっており、「この機会を逃すと生涯ブラジルへ行くことはない」と考え派遣団に応募しました。マリンガでは、日系人の藤原ウゴさん、マウラさんご夫婦宅にお世話になりました。まさかブラジルで同姓の方にお会いするとは考えておらず、大変驚きました。現地では、市役所、市議会、加古川・マリンガ外国語センター等を視察し、人々との交流を通して両市間の友情を深めることができました。今後の交流で、マリンガからの派遣団が来日する時は、是非何か協力できればと考えています。



マリンガ市役所表玄関前

日本の反対側で感じたこと

私は母の友人からの勧めがきっかけで、派遣団に応募しました。マリンガ市では日系のホストファミリーと4泊5日の時間を過ごしました。9歳の三男の誕生日にはパーティが開催され、親戚や、三男のクラスメートが集まりました。親戚の方々が、とても私に興味を持ってくれ、日系二世の方の中にはいらっちゃって、日本語でお話をしてくれました。ブラジル全体の街や人について感じたことがあります。スラム街の存在を知りました。観光地で登ったコロコパードのキリスト像やボン・ジ・アスカルからもスラム街は多く見られました。

次にブラジル人について、ブラジル人は陽気な人が多いと聞いていましたが、まさにその通りでした。移民の国として様々な人種が存在しており、本当に誰もが受け入れられる国ということを感じました。イグアスは圧巻でした。ブラジル側とアルゼンチン側からの景色を体験しましたが、本当に地球は凄いと感じました。今後も派遣団での経験を生かして、国際的な視点を忘れずに、学びを深めて行きます。(加古川市では、今回の活動を派遣団報告書として発行されます。)



イグアス

【 0 BRASIL (2017年10月31日号)より抜粋 】

加古川市

〒675-0017 兵庫県加古川市野口町良野387-1

TEL : 079-425-1166

FAX : 079-425-0200
